

牧師 間瀬 善彦

「今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった」(ルカ福音書 2:11)。

クリスマスは、どんな日かご存じでしょうか。サンタクロースの誕生日だ、と思っている人が意外と多いようです。それは間違いです。クリスマスは、英語で「キリストの祭り」という意味で、イエス・キリストの誕生日です。私たちの救い主が、ユダヤのベツレヘム(ダビデの町)でお生まれになった日です。

二千年前、パレスチナの小さな村ベツレヘムの家畜小屋で、名もない貧しい旅行中の大工夫婦、ヨセフとマリアに赤ん坊が生まれたというようなことは、全く普通の出来事にすぎなかったでしょう。宿屋はどこもいっぱいでした。結局彼らが落ち着いた場所は家畜小屋で、生まれた幼子は飼葉おけに寝かさなければなりませんでした。

幼子は家畜の臭気の中で、見すばらしい状態で、人びとに知られずに生まれたのでした。しかしこのような状態でも、神のなさることは常に深いご配慮があるのです。人びとの救い主であるお方がこのように低い状態で生まれたのは、この世でどんなに低く貧しい境遇に置かれた人にとっても、彼はその人の友となることができるというすばらしい意味を持つのです。

この幼子の誕生は、羊飼いたちに最初に知らされました。当時、羊飼いの仕事は、人びとから軽蔑されていました。裁判で証言することも許されていなかったのです。そのような羊飼いであるにもかかわらず、幼子誕生の知らせは、社会で冷遇されていたこうした羊飼いたちに真っ先にもたらされたのです。

今あなたが、人びとから見下げられている、冷遇されていると感じるのでしたら、イエス・キリストの誕生は、あなたのためだったのです。

クリスマスイブ礼拝

12月24日(土)

午後7時~8時

クリスマス礼拝

12月25日(日)

午前10時30分

元旦礼拝

2006年1月1日(日)

午前11時

新年礼拝

1月8日(日)

午前10時30分

今年もクリスマスの季節がやってきた。

クリスマスは、イエス・キリストの誕生を祝う日であり、キリスト教における極めて重要な記念日だ。また近年では商業化が進み、日本のような非キリスト教国でも、大衆のイベントの一つになっている・・・と言うことは、いまさら言うまでもないことだ。

おそらく大勢の人が、クリスマスと聞いてすぐにクリスマスツリーや、ジングルベル、サンタクロース、イルミネーションなど、いろいろなイメージを頭に浮かべるのではないだろうか。それはクリスマスが国民の間に広く浸透しているということの、一つの証明になると思う。

そして私の場合クリスチャンなので、この時季が来ると必ず、聖書から一つの聖句を思い出す。それは、ヨハネによる福音書 3章 16節

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。

それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、

永遠のいのちを持つためである。」

私はクリスマスに合わせて洗礼を受けたが、これはその準備をしていた時に、牧師先生から与えられた聖書の箇所だ。今でもよく覚えている。私はこの時初めてクリスマスを祝う本当の意味が、はっきりと分かった。

クリスチャンの家庭に生まれた私は、それまでもクリスマスが何の日なのかは当然知っていたし、大切な日だとも思っていた。ただそれは家族そろって教会のイブ礼拝に行く、言ってみれば年中行事のような感覚だったのかもしれない。

ところが、この聖書の箇所はこう言っている。

神は、私たちが自分の罪に気付く、本当の意味で救われるため、この罪に溢れる世界にイエス・キリストをお遣わしになった。ご自分のたった一人の御子を犠牲にされるほどに、私たちが愛して下さっていたから。

愛という最高のプレゼントを、神様から貰った日、それがクリスマスだった。自分は愛されている。それを知ったから、私は心から感謝して、クリスマスを祝う事ができると思った。そしてクリスチャンの家庭に生まれ、神様を信じる事が出来たことを、本当に幸運だったと、思わずにはいられなかった。

その時牧師先生はこうも言われた。

「神様を信じたその瞬間から、洗礼を受ける資格があります。」

そして私は洗礼を受けることを決意した。

クリスマスは今やキリスト教だけの祭事ではなくなった。過度に商業化が進み、本来の意義が失われつつある、と嘆くクリスチャンもいる。だが私の個人的な意見としては、その人たちがクリスマスを幸福に過ごしてくれることの方が、形式的に過ぎるよりはずっといいと思う。

とは言え、やはり教会で過ごすクリスマスは良い。

いつも教会に行くのは、午前中の明るい時間だけだが、イブの日は夜から礼拝が始まる。礼拝堂に入れば、一人一本ずつロウソクを渡され、それに明かりを灯す。たくさんのロウソクの明かりに照らされる礼拝堂内は、なかなか幻想的だ。そこへ聖歌隊の歌う賛美歌が相まって、聖夜にふさわしい静かな、厳かな気持ちにさせてくれる。

教会には街のイルミネーションのように、目の醒めるような美しい煌きはないかもしれない。ただ、大抵こじんまりとしたクリスマスツリーが置いてあり、ポツポツと電飾を光らせている。イルミネーションのあの贅沢な輝きに比べれば、わびしい感じもなくはない。でも私にはそれで十分だ。クリスマスの本当の喜びを知っているのだから。

Y.N



信仰生活とは、クリスチャンとは

クリスチャンとは、キリスト教徒のことであり、キリスト教信者のことである。

物への崇拜、自己への偏愛に陥ることなく、神と私の関係において、神への愛、神からの愛を信じ、敬虔に祈り、神を崇拜することが、クリスチャンに課せられた要素である。

信仰生活とは、社会生活、教会生活、個人生活全てを基盤として成り立つものである。

人間としての生活の基盤の中で成り立つものであると思う。私のような、偽善的要素を含む人間には厳しい言葉だが、

「クリスチャン生活のすべては信仰生活です。一日の 24 時間のどの部分であれ、信仰生活でないクリスチャンの歩みなどというものはありません」と、書かれているのを読んだ。

正に職業的聖職者のような言葉であり、襟を正すと共に、恐怖を感じた。「個人生活とは、『神と私』の生活であり、その要素は、1.みことば、2.祈り、3.証し、であり、神のみことば（聖書の教え）は、暗闇に迷う者にとっては光のようなものです。その光に、正しく、忠実に導かれて行くときに、いのちに至ることが出来るのです」とも、書かれていた。

更に、クリスチャンの祈りとは、如何なるものか、と考えまとめてみた。

- | | | |
|----|----------|---------|
| 祈り | 1.感謝 | |
| | 2.罪の悔い改め | |
| | 3.願い | |
| | 4.とりなし | であると思う。 |

この 4 つの要素を、聖書のみ言葉の中から拾ってみた。

“感謝、 「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことでも感謝しなさい」

（テサロニケ I 5 章 16～17 節）

“悔い改め、 「自分の罪を公に言い表すなら、神は真実であり正しい方ですから、罪を赦し、あらゆる不義からわたしたちを清めてくださいます」

（ヨハネ I 1 章 9 節）

“願い、 「何事でも神の御心に適うことをわたしたちが願うなら、神は聞き入れてくださる。これが神に対する私たちの確信です。わたしたちは、願い事は何でも聞き入れてくださるということがわかるなら、神に願ったことは既になえられていることもわかります」

（ヨハネ I 5 章 14～15 節）

“とりなし、 「どのような時にも“霊”に助けられて祈り、願い求め、すべての聖なる者たちのために、絶えず目を覚まして根気よく祈り続けなさい」

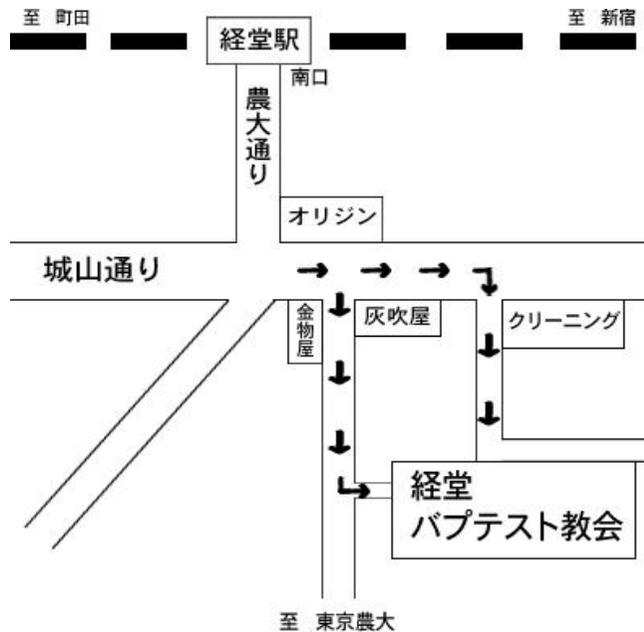
（エフェソ 6 章 8 節）

しっかりと神に結びつくことが大切であり、神の前における個人生活の確立こそ、信仰のあらゆる歩みの基礎となるべき重要な事柄である。

今回は、少し真面目に考え、書いてみたが、すべて私自身への警告であり、反省への題材ということで、お読み頂きたいと思う。

集会案内

主日礼拝	日曜日	午前 10時30分～11時30分
教会学校	日曜日	午前 11時45分～12時30分
青年科・成人科		
聖書を学ぶ会	火曜日	午後 1時 ～ 2時
聖書研究・祈禱会	水曜日	午後 7時30分～8時30分
英語教室 (英文法)	火曜日	午後 7時30分～9時
(英会話)	金曜日	午後 7時 ～ 8時30分



経堂バプテスト教会

牧師 間瀬 善彦

〒156-0053 世田谷区桜1-64-30

TEL 03-3426-0071

当教会は、エホバの証人、モルモン教、統一協会とは一切関係ありません。